

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 中部学院大学 実施報告書



実施主体 人間福祉学部人間福祉学科 社会福祉援助技術演習Ⅱ大藪クラス
実施内容 平成25年10月27日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待に関するテレビ番組を視聴し、基礎的な知識を身につけた上で、児童虐待をどのようにして防ぐか、KJ法にて整理をした。
これらを踏まえて、展示物を作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

「たのしみん祭・大学祭」及び「第14回人間福祉学会2013」の会場において、学生が作成した展示をするとともに、声かけをしながら、オレンジリボンのバッチとチラシ、しおりを手渡した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

児童虐待の実態から学び、その背景について整理をすることによって、問題の本質に迫ることをめざした。これにより、子どもを守ることが最も重要なことであるが、児童虐待を防ぐためには、親を支援する必要があることを結論の1つとして導き出すことができた。親を支援するためには、周りの人が変化に気づき、声をかけ、必要に応じて「通報」することが、親を支援することにつながるということがわかった。

このためには、児童虐待のことを知ってもらう必要があるため、ソーシャルアクションに関する学びとして、オレンジリボン運動に取り組んだ。

社会福祉士の立場から地域住民に向けた展示物を作成をするという演習を行い、「たのしみん祭・大学祭」、「人間福祉学会」で展示した。しかし、あまり読んでもらうことはできず、ソーシャルアクションの大切さと難しさを学ぶことができた。

KJ法での作業の様子



「たのしみん祭・大学祭」での展示の様子

